

平成11年度第4回愛知県周産期医療協議会
議 事 要 録

日時：平成12年3月24日 午後3時から午後5時まで

場所：名古屋第一赤十字病院 第6会議室

委員

出席者：加納委員、有吉委員、安藤委員、岡田委員、小田委員、森川委員、風戸委員、
小池委員、小山委員、田邊委員、戸苅委員、長屋委員、奈倉委員、野口委員、
判治委員、松澤委員、森田委員

欠席者：

事務局：愛知県衛生部保健予防課長 名古屋市衛生局保健医療部保健予防課長
名古屋第一赤十字病院第三産婦人科部長、同病院第二小児科部長

司会者：名古屋第一赤十字病院第三産婦人科部長

議長：加納会長

1. 長嶋技監挨拶

2. 議事

(1) 平成11年度愛知県周産期医療情報システムの報告と今後の課題について

<新ホ - ムペ - ジの内容説明> (別紙)

- * 10月の医療協議会において、ホ - ムペ - ジに新設、追加について協議されたことを受けて、新ホ - ムペ - ジを作成しました。
- * 各地域周産期センタ - のホ - ムペ - ジも作成しました。
- * ホ - ムペ - ジの内容を今後もっと充実させて行きたいので、変更等分らない事は委託業者に相談して下さい。
- * 医療協議会開催状況として、議事要録を平成10年度第1回から掲載しています。(議事の部分のみを掲載して、プライバシー - 等にかかわる事項は省略しています)
- * 研究事業(母子手帳について)については、フロッピー - の内容をそのまま掲載していません。
- * 専門相談事業は、4月から9月までを掲載しました。
- * 母体・新生児搬送連絡書を掲載しました。
- * 医療関係者用サ - ビス(パスワード必要)で、その他の周産期医療施設(8地域周産期センタ - 以外)の応需情報掲載欄を追加しました。(現時点での登録はありません)
- * 各地域周産期センタ - の入力画面はタイムリ - に各自入力できますが、トップペ - ジは総合周産期センタ - (名古屋第一赤十字病院)のみ入力可能です。
- * おすすめリンクは、現在具体的に出来上がっていませんので削除します。新に出来次第登録します。
- * このホ - ムペ - ジは、今回の医療協議会にて承認されれば、4月1日より一般公開したい。
- * 一般公開するにあたり内容充実のために、各地域周産期センタ - の協力をお願いします。
- * 昨年より内容も充実してきましたので、他府県にも参考になるようなものが出来てきたように思われる。
- * 各周産期センタ - のホ - ムペ - ジは、各センタ - の責任により更新して下さい。
- * トップペ - ジは、「周産期医療協議会」「事務局」で大きな変更に関してはチェックします。
- * イン트라ネットは、従来どうり「パスワード」必要です。
- * 全国に公開するには、もう少し内容を充実する必要があるので、各地域周産期センタ - の協力をお願いします。

<システム利用状況>

- * 別紙を参考にして下さい。

(2) 平成11年度愛知県周産期医療協議会専門相談事業の報告と今後の課題について

- * 平成11年度の専門相談は、セミナーを兼ねて9回実施しました。
- * 専門相談の参加者は15名～20名で、院外からの参加者は1名～5名でした。最後の特別専門相談は、60名の参加者がありました。
- * 平成11年度の専門相談は、ウイークデーの午後で開催したので、多くの方が参加することが困難であったようである。
- * 各地域周産期センターの電話相談件数は別紙のとおりです。
- * 各地域周産期センターの報告が届いていないところがありますが、協力をお願いします。
- * 平成12年度の専門相談は、地域の医療関係者を対象に各地域周産期センターの担当で開催をお願いしたい。
- * 毎月の平日開催はなかなか出席できないので、土・日曜日の開催にしてはどうか。
- * 各センター9ヶ所あるので、各施設ロケーションでそれぞれ1回開催する。
- * 各施設に予算を配分して開催してもらおう。
- * 名古屋第一赤十字病院での開催には、会場費を掛けずに開催できました。
- * 名古屋第二赤十字病院では、年1回独自で後援会を開催しているので、専門相談兼セミナーの開催を担当することは困難ではないと思う。
- * 平成12年度は各センターのロケーションで開催する。
- * テーマ・講師については、各センターで決定し開催する。
- * 開催結果については、事務局に報告することとする。
- * 各地域を中心に行うので、テーマは重複しても良いが、毎月同じテーマにはならないように、3・4ヶ月の期間を空けて同テーマで開催してほしい。(事務局でテーマの総括を行う)
- * 電話相談の集計には、各周産期センターの協力をお願いします。
- * 各地域周産期センターの電話相談件数の集計には、回答内容等の集計項目を統一すれば、集計データがより正確なものになるのではないか。
- * 各センターの集計は、インターネットを使用し、各センターが入力してはどうか。
- * 総合集計は、委託業者で行ってもらおう。
- * 半年ごとで、各センターの集計結果を更新する。
- * 現在集計資料の提出は自主的に行ってもらっているが、今後事務局からFAXで各施設の担当者宛てに提出依頼する。

(3) 平成11年度愛知県周産期医療協議会研修事業の報告と今後の課題について

- * 5月22日に、平成10年度調査・研究事業報告として研修会を開催し、60名の参加者がありました。
- * 11月6日に、講演会を開催し、約70名の参加者がありました。
- * 平成12年度の研修事業(案)として、研修会としては
 - 1 調査・研究の報告と各センターより演題を募集しそれについて討論会を行う、講演会として
 - 2 本年は三河地域(豊橋、安城、豊田)で開催したい。
- * 2については、豊橋駅前で開催する。(講師料・会場費・案内郵送料を含めて、予算の配分を行う)

(4) 平成11年度愛知県周産期医療協議会調査・研究事業の報告と今後の課題について

<テーマ1 母体搬送の実態調査>(有吉委員)

- * 平成11年1月～平成11年6月の妊産婦救急搬送の実態を調査しました。
- * 愛知県下の消防本部・消防組合・消防署に「救急搬送数」「搬送依頼先名(発生地)」「収容先施設名」「要望(消防隊員)」のアンケートを行いました。
- * 産科施設には、収容した患者のアンケートを行いました。(調査期間6か月間)
- * 集計表・結果は別紙のとおりです。
- * 現時点では、中間報告と致します。
- * 愛知県で概算年間800件の救急搬送があると推測され、愛知県(名古屋市を含む)の分娩数は7万5千件あるので、約1%が救急搬送されている。
- * 他府県にも同様な調査結果報告があるか、一度調査してから報告します。

< テ - マ 2 新生児搬送の実態調査 > (安藤委員)

- * 愛知県下の消防本部・消防組合・消防署と自院の救急車を使用している病院（名古屋第二赤十字病院・愛知県心身障害者コロニ - 中央病院）に救急搬送のアンケートを行いました。（トヨタ記念病院は、診療時間内は自院の救急車を使用、診療時間外は消防署の救急車を依頼している）
- * 名古屋市内と他の地域（愛知県下）の6ヶ月間の救急搬送について調査しました。
- * 生後28日以内の患者にしましたので、新生児だけの限定になりませんでした。
- * 集計結果は別紙のとおりです。
- * 母体搬送より、新生児搬送の数が多いので、新生児搬送についても、周産期医療としての研究も必要である。
- * 新生児搬送より母体搬送の方が良いと思う事例がありますか。
- * 未熟児については、母体搬送をすべきであると思う。（名古屋第二赤十字病院ではその方向で指導している）
- * 今後母体搬送数が増加すると思われる。
- * 両調査は、大きな成果が得られると思われる。
- * 平成12年度第1回医療協議会で報告書を提出してもらえるとよいが。

< テ - マ 3 胎児・新生児心疾患調査 > (松澤委員)

- * 1月になってから、産科関連施設（220施設）にアンケート依頼しました。（1年間を調査）
- * 現在150施設約70%の回収率です。
- * 報告施設にケ - スカ - ドを送付しました。（胎児診断症例 25例・新生児症例 298例）
- * ケ - スカ - ド返却422件（胎児診断症例 6例・新生児症例 122例）です。
- * 小児科医師に対して、実態調査と研究のお願いをしました。（76施設）
- * 昭和60年前に国が、7万人を対象に心疾患について行った調査のデータが、現在ある唯一の報告書であるので、貴重なデータとなると思われるので、続けて調査してもらいたい。
- * 先天性奇形を手術した結果について、小児科医師に依頼しているが、どのくらい記入してもらえるか疑問である。
- * 一年間の調査では満足に行く調査は出来ない、3年間ぐらい調査すれば良いデータを得る事が出来ると思われる。

(5) その他 報告事項

資料5 - 1

- * 地域保健医療計画の平成11年10月に行った、愛知県医療実態調査「医療機関医療機能調査二次調査集計」結果（抜粋）です。
- * 調査期間は平成10年4月1日から平成11年3月31日までの1年間です。

資料5 - 2

- * 24時間風呂水中出産が原因と思われる新生児のレジオネラ感染症についての、保健衛生ニュースと厚生省の通知です。
- * 厚生省の通知は、愛知県の医療協議会の通知を基に出されました。
- * 愛知県周産期医療協議会で纏めたものを、愛知県が報告したものを厚生省が全国へ通知しました。

資料5 - 3

- * 少子化対策推進基本方針（要旨）別紙は、少子化対策の参考にして下さい。
- * 出産、少子化対策のためにも、周産期医療協議会の協力をお願いします。

資料5 - 4

- * 新エンゼルプランについても、周産期ネットワークの協力をお願いします。

資料5 - 5

- * 「すこやか親子21」の概要です。

資料5 - 6

* あいちの母子保健ニュー - スは、愛知県保健予防課で作成し市町村等へ配布しています。

資料5 - 7

* 愛知県本庁組織図について、衛生部保健予防課は、健康福祉部健康対策課と児童家庭課等になり、母子保健については健康福祉部児童家庭課が担当します。

* 周産期医療協議会の所轄担当は4月1日より、健康福祉部児童家庭課が担当します。

資料5 - 8

* 総合周産期母子医療センタ - 平成11年度2月までの報告、統計集計、病床利用率（平成10年7月から）です。

* N I C Uは最初から病床利用率は100%で、P I C Uは最初病床利用率70%でしたが、最近は80%～90%で稼働しています。

* 多胎児の母体搬送が多い。

* N I C U100%の病床利用率のため、P I C Uに影響がでている。

* 名古屋第一赤十字病院のN I C Uのベット数を増床する一方、他にもう1施設増設することも検討が必要である。

* ハイリスクの母体に有利になることを考えると、他施設にも分担して欲しい。

* 全国的には2か所の県もあるので、愛知県からも厚生省に要望したいと思います。

資料5 - 9

* 別冊「ハイリスク妊婦と愛知県周産期医療対策」参考にして下さい。

資料5 - 10

* 平成12年度事業計画（事務局案）

* 専門相談事業は、各センタ - 1回年間9回開催する。

* 「ハイリスク胎児・新生児専門委員会」（仮称）を設置し、専門相談の充実化を推進する。

* 調査・研究事業は、

1 最近の妊婦・分娩形態の多様化および水中出産の実態調査（主任研究者 戸苅創）

2 愛知県下の新生児外科疾患の実態調査（主任研究者 長屋昌宏）

3 愛知県下の胎児・新生児の先天性心疾患の実態調査（主任研究者 松澤克治）

で検討中です。（3のテ - マは継続です）

* 研修事業は、

1 研修会は平成11年度調査・研究事業の報告及び「愛知県母体・胎児・新生児研究会」を発足させ総合周産期母子医療センタ - 及び8地域周産期母子医療センタ - より演題を募集しD i s c u s s i o n。

2 講演会は、平成12年度は三河地域で開催する。

* ハイリスク胎児（出生前奇形児等）について、周産期として倫理問題の対処が出来るかの検討も必要である。

3 . その他

* 4月より診療報酬が改正され、N I C U加算は増加するが、検査料が下がるので実際には、減収になるのではないかと思われる。

* 4月から健康福祉部児童家庭課が医療協議会の担当をします。

* 各委員の任期が5月までとなっていますが、再任されましたら宜しくお願い致します。

* 平成12年度第1回の医療協議会は、平成12年6月2日（金）15：00～開催します。（場所：名古屋第一赤十字病院 第六会議室）